

あぶたん つうしん

133号

堤防に階段を設置しました!



平成24年3月に阿武隈川にかかる常磐線阿武隈川鉄道橋の20mほど下流に階段を設置しました。

堤防と線路が交差するため、以前は、大きく迂回する必要がありましたが、階段により利便性が向上しました。

9月14日(日)に、逢隈地区まちづくり協議会が主催する「おおくま歩け歩け大会」が開催され、ちょうど見頃だった阿武隈川河川敷のヒマワリを眺めながら、地元の方々がウォーキングを楽しみました。

逢隈地区まちづくり協議会

HPアドレス <http://www.wa-tukuri.jp/publics/index/89/>



満開のヒマワリ畑



設置された階段を利用した「おおくま歩け歩け大会」の様子
(逢隈地区まちづくり協議会写真提供)

堤防災害復旧工事見学会

10月20日(月)仙台河川国道事務所管内で、現場見学会がありました。

県南地区(亘理町・山元町)の復興事業、その他関連する地域全体の復興計画を理解することを目的としたもので、見学場所の一つとして、岩沼出張所管内の「阿武隈川下流荒浜5工区堤防災害復旧工事」の現場を見学しました。



荒浜5工区施工中の現場状況



阿武隈川の被災と復旧状況、液状化対策工法について説明を聞く見学者の皆さん

地震による堤防の亀裂や陥没は、堤防直下のゆるい砂地盤が液状化することにより発生します。このため、ゆるい砂地盤を締め、液状化を防ぐことにより健全な堤防を守ります。見学した現場では、振動・騒音を抑えた「セーブコンポーザー工法」を採用しました。見学者の皆さんは、機械の大きさや振動・騒音の少ないことに驚き、それぞれの現場の進みぐあいを肌で感じてくれたのではないのでしょうか。

—工法の概要—

セーブコンポーザーは砂質地盤の締め工法であるサンドコンパクションパイル工法の施工法を改善する技術。地中に砂・碎石又はリサイクル材(再生碎石、転炉スラグ)による締め付けた杭を造成することによって、地盤を締め固めるもの。ケーシングパイプの貫入システムに強制昇降装置と回転圧入装置を採用し、杭体造成時の施工サイクルにウェーブ施工を採用することによって低振動・低騒音の静的締め固めを可能としたもの。

阿武隈川の上流

源流の西郷村、東北の玄関口となる白河を通り阿武隈川は源流から上流へと流れます。

阿武隈川上流部、須賀川市と大玉村に位置する【乙字ヶ滝】

「日本の滝百選」にも選ばれる幅100m落差6mの滝です。

水が乙の字の形をしていることから、名前がつけられたとされています。松尾芭蕉の「五月雨の滝降りうづむ水かさ哉」で知られる句碑や石像周辺は公園が整備されています。



松尾芭蕉と河合曾良の石像



乙字ヶ滝

ゲート設備修繕工事

阿武隈大堰では、堰の正常な機能を維持するため定期的に日常の点検と補修を行っています。

10月16日(木)は迫力ある現場で、ゲートの上から傾きを調整する作業を行いました。多くの方々の支えもあり大堰は健全に稼働し続けています。



傾きの調整作業(計測)

